

有明海水産資源回復技術確立事業*

アゲマキ増養殖技術開発試験（アゲマキ種苗放流技術開発試験）

土井大生・大渡功晟・川名拓里・神崎博幸

当センターでは、有明海の重要な水産資源の一つであるアゲマキ*Sinonovacula constricta*の資源回復を目的として、1996年度から母貝集団の創出に向け、種苗生産及び放流技術の開発に取り組み、殻長8mmサイズの種苗を200万個規模で生産する技術を確認するとともに、母貝集団を創出するための放流技術の開発に成功した¹⁻⁶⁾。このような中、2021年度から実施している従来の放流サイズ（殻長約8mm）よりも小型サイズ（殻長約2mm）種苗の放流については、従来の殻長8mmサイズと同程度の成長・生残を示した⁷⁻⁸⁾。今年度も、殻長2mm種苗の放流手法について検討したので概要を報告する。



図1 アゲマキ種苗の放流地点

方法

1. 小型（殻長約2mm）種苗放流試験

2024年11月に東与賀および浜地先(図1)において、2×5mの方形の試験区画に10,000個/m²の密度で種苗放流し、既報⁴⁻⁶⁾の方法で散逸・食害防止等を施して試験を開始した。放流後は、生残状況および成長を把握するため、生息密度に応じて5×5cm, 10×10cm, 15×15cm, もしくは25×25cmの方形枠を用いて深さ10cmの底泥を採取し、その中の稚貝を計数するとともに、殻長を測定した。

結果

1. 小型（殻長約2mm）種苗放流試験

試験区の設定および放流後の追跡調査結果を表1に示す。2mm稚貝の放流後の生息密度は、2025年4月に東与賀で0~14.8個/m²、浜で16.7~400個/m²であった。平均殻長は、東与賀で6.4~8.8mm、浜で12.6~17.2mmであった(図2)。なお、2023年度に放流した2mm稚貝の2024年4月時点での生息密度は、東与賀で425~3,750個/m²、浜で720~6,450個/m²であったため、過去の生息密度調査と比較して生残率は低い結果となった。

5月2日時点で、成長の良い個体は、一部取り上げを行い移植養殖試験に供した。

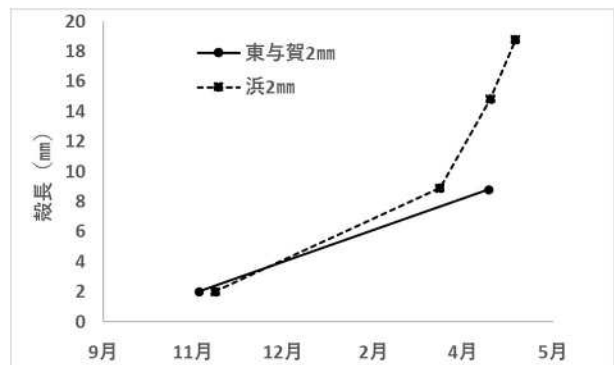


図2 2mm稚貝の平均殻長の推移

表 1 小型種苗放流試験の放流データおよび追跡調査結果

		放流データ			2025			
		放流日	放流密度 (個/m ²)	放流面積 (m ²)	3月		4月	
					生息密度 (個/m ²)	平均殻長 (mm)	生息密度 (個/m ²)	平均殻長 (mm)
東与賀 (2mm)	①	2024/11/6	10,000	10	0	-	0	-
	②	2024/11/6	10,000		-	-	14.8	8.8
	③	2024/11/6、7	10,000		0	-	0	-
	④	2024/11/7	16,000		-	-	7.4	6.4
浜 (2mm)	①	2024/11/8	10,000	10	53.3	8.4	66.7	13.9
	②	2024/11/8	10,000		195.6	9.3	216.7	13.2
	③	2024/11/8	10,000		213.3	8.9	400	14.8
	④	2024/11/8	10,000		62.2	7.0	16.7	17.2
	⑤	2024/11/8	10,000		53.3	8.3	33.3	12.6
	⑥	2024/11/8	10,000		124.4	7.9	83.3	16.3

文 献

- 1) 大隈 斉・江口泰造・山口忠則・川原逸朗・伊藤史郎 (2003) : 有明海におけるアゲマキ人工種苗の成長と成熟, 佐有水振セ研報. (18), 21-24.
- 2) 津城啓子・大隈 斉・藤崎 博・有吉敏和 (2009) : 有明海におけるアゲマキ人工種苗の成長と成熟-II, 佐有水振セ研報. (24), 1-4.
- 3) 津城啓子・佃 政則・大隈 斉・古賀秀昭 (2013) : アゲマキ放流稚貝の生残・成長と底質(物理環境)との関係, 佐有水振セ研報. (26), 93-100.
- 4) 佃 政則・神崎博幸・福元 亨・梅田智樹・荒巻 裕・伊藤史郎 (2017) : 被覆網による放流後のアゲマキ稚貝の散逸対策, 佐有水振セ研報. (28) . 43-45
- 5) 佃 政則・野間昌平・神崎博幸・福元 亨・野田進治・梅田智樹 (2019) : 被覆網を用いたアゲマキ放流条件の再検討, 佐有水振セ研報. (29) . 5-9
- 6) 野間昌平・大庭元気・重久剛佑・野田進治・佃 政則 (2021) : 被覆網を用いたアゲマキ放流手法の高度化, 佐有水振セ研報. (30), 26-30.
- 7) 重久剛佑・佃 政則・野田進治・山口大輝・大庭元気 (2021) : アゲマキ増養殖技術開発試験(アゲマキ種苗放流技術開発試験), 佐有水振セ業報. (3), 18-20.
- 8) 重久剛佑・大渡功晟・佃 政則・野田進治・山口大輝 (2022) : アゲマキ増養殖技術開発試験(アゲマキ種苗放流技術開発試験), 佐有水振セ業報. (4), 20-22.